

Pink Ribbon Festival in Tsukuba 2011

報告書



つくばピンクリボンフェスティバル 2011

Breast Cancer Awareness 乳がんと私たち～みんなで一緒に～

イベント 5月1日(日)

ピンクリボンラン
銀輪隊ツーリング

2011年5月8日(日) 母の日 つくば国際会議場エポカル

タイムテーブル



9:00-	受付開始 / 多目的ホール入り口 ウォーク / エポカル・ペデストリアン 乳がん相談コーナー / 中会議室201 ピア交流サロン・患者コーナー / 中会議室202 ピンクリボンメッセージツリー
10:00-16:00	ピンクリボン広場 / 多目的ホール スライドショー フラダンスショー ウォーク表彰式 展示ブース フードコーナー
13:00-15:30	中ホール200 司会：松岡 正美（フリーアナウンサー） 開会の挨拶 市原 健一（つくば市長） 入江 ふじこ（茨城県保健福祉部保健予防課長） 矢口 龍人（かすみがうら市議会議員） 講演 「乳がんの予防から治療まで」 中村清吾 昭和大学医学部乳腺外科教授・昭和大学プレストセンター長 閉会の辞 五十嵐 徹也（筑波大学附属病院長）

写真：斎藤さだむ

写真・画像・記事等の無断転載、無断使用をお断りします。

主催	つくばピンクリボンフェスティバル 2011 実行委員会 NPO 法人つくばピンクリボンの会 Tsukuba Pink Ribbon Coalition
名誉大会長	市原健一／つくば市長
名誉大会実行委員長	五十嵐徹也／筑波大学附属病院長
大会実行委員長	植野映／筑波メディカルセンター ブレストセンター長
共催	茨城県保健福祉部保健予防課、つくば市、茨城乳腺疾患研究会、 NPO 法人乳房健康研究会 、財団法人茨城県総合健診協会、社団法人茨城県放射線技師会、財団法人茨城県メディカルセンター、財団法人筑波メディカルセンター、財団法人日立メディカルセンター、社団法人茨城県医師会、取手市医師会取手北相馬保健医療センター医師会病院、総合病院土浦協同病院、筑波大学附属病院
後援	茨城県ウォーキング協会、 NHK 水戸放送局 、社団法人茨城県看護協会、土浦ケーブルテレビ株式会社 J:COM 茨城
協賛	塙田陶管株式会社、医療法人広翔会貝塙みづき野クリニック、いちはらメディカルグループ、中外製薬株式会社、二の宮越智クリニック、塩野義製薬株式会社、(有)宮島達男事務所、大鵬薬品工業株式会社、医療法人社団新岳会研究学園クリニック、株式会社横山印刷、小野製薬工業株式会社、アロカ株式会社、医療法人おおたしろクリニック、グラクソ・スミスクライン株式会社、 QOL 総合研究所(株) 、岩佐医院、前島レディースクリニック、株式会社カスミ、株式会社ウロメディカルジャパン、武田薬品工業株式会社、社団法人石岡市医師会病院、桃谷順天館グループ、医療法人弘仁会志村病院、ユニー株式会社、株式会社ワコール、株式会社つくば研究支援センター有志一同・協和発酵キリン株式会社、株式会社東洋羽毛茨城営業所、株式会社竜商事、株式会社アートネイチャー、株式会社イセブ、土浦産婦人科、宮川内科胃腸科医院、アストラゼネカ株式会社、サノフィ・アベンティス株式会社、ファイザー株式会社、ブリストル・マイヤーズ株式会社、ノバルティスファーマ株式会社、日本化薬株式会社、株式会社ヤクルト、久光製薬株式会社、日本イーライリリー株式会社、つくば学園ロータリークラブ、関彰商事株式会社、大和ハウス工業株式会社(イーアスつくば)、広沢グループ会長広沢清、常陽ぷらざ株式会社、東芝メディカルシステムズ株式会社、ピンクリボンクラブひたち、くるみの会(筑波大学附属病院 乳がん患者会)、森の会-筑波メディカル・ピンクリボンの会、乳がん仲間の小さなおしゃべり会 momo ♪、エーザイ株式会社、利根コカ・コーラボトリング株式会社、(株)坂田園芸、富士フィルムメディカル株式会社茨城営業所、研究学園都市コミュニティーケーブルサービス(ACCS)、ラヂオつくば、ゼビオ株式会社、スターバックスコーヒー イーアスつくば店、ミスターードーナツ・イーアスつくば店、コニカミノルタヘルスケア株式会社東関東支店第三営業所、入江ふじこ、大塚正裕、(匿名2名)

(順不同)

みんなで一緒に

植野 映

実行委員長／つくばピンクリボンの会理事長

はじめに

本年3月11日に発生した東日本大震災にて被害に遭われた方々にお見舞い申し上げます。

さて

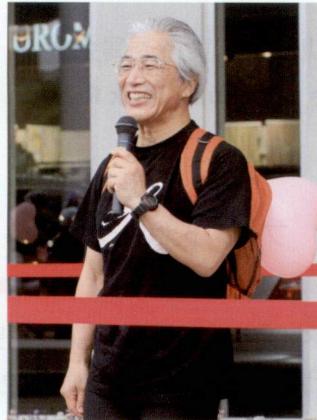
つくばピンクリボンフェスティバルでは今まで多くの方々が参加し、啓発活動に一定の成果を上げてき

た。特に無料検診をはじめとして午前中のイベントは多岐にわたり参加者からは高い評価を得てきたようである。中でもウォークには関心が高く、実行委員ならびにボランティアから自分たちもウォークに参加したいという声が多く聞こえるようになった。無料検診も繰り返し受診者が大半を占めるようになり、啓発運動としての役目は十分に果たしたと考えられ、無料検診等は企画せず、皆でウォークに参加してアピール度を高くしようというコンセンサスが得られた。

そのような方針から今回のキャッチフレーズは“みんなで一緒に”と決まった。当会のようなNPO法人を運営し、啓発していくには継続性が要求される。それもマンネリ化した継続では訴える力は弱くなってしまう。その点、このキャッチフレーズは参加者のみならず、実行委員、ボランティアのみんなの団結心を強め、新しいピンクリボンフェスティバルへと導いた。

ところが、この3月に東日本大震災が発生し、多くの犠牲者を生むこととなった。この未曾有の災害は、精神的にも資金的にも私たちへの重圧となり、フェスティバルを遂行すべきかいなか迷わざるを得なかった。一方、本大震災による死者と同じ数の方々が、この1年間に乳がんで亡くなっている。このことも我々は訴えていかなければいけない。このジレンマの板挟みになりながらもこれ以上不幸の上乗せは許されないと想いで開催させていただいた次第である。そして、この大震災の犠牲者に少しでも支援の手を差し伸べようと東日本大震災復興支援を謳い、極力節減し、支出の抑制に努め、義援金を捻出することに努めた。フェスティバルの名称については既に告知していることもあり、無変更はやむを得ないとした。

ウォークの当日、天気予報は雨、だが、天は味方した。なんと雲は南北に分かれ、つくばに晴れ間をもたらしたのである。今までにない人が集まり、参加者全員の一体感が得られた。“みんなで一緒に”というキャッチフレーズが達成されたことには大きな喜びを感じた。



中村清吾先生のご講演も乳がんの疫学、検診、診断、治療、再発治療と多岐にわたる難しいテーマを簡潔に分かりやすく説明され、参加者はたいそう満足気だ。

ウォークでのハートのパフォーマンスはさすがに難しかったね。企画としては魅力的なテーマでもあるので、次回は成功するよう事前に策を練りたい。

また、行政、議員の方にも関心を抱いていただいたことは一歩前進である。これを糧に検診率のアップにつながるよう更なる運動を展開しよう。

おわりに

今回のイベントでは、おかげさまにて東日本大震災の義援金として45万1000円を県に寄付することが可能となりました。皆様のご協力にあらためて御礼申し上げます。

感想

森島 勇

実行委員／筑波メディカルセンター病院 乳房科

5月8日㈰は非常に暖かい日でした。新緑に映えるつくばのペデストリアンは、ウォークにはもってこいのコースです。多くの参加者がピンクハートのバルーンを持って、手作りの乳がん啓発の横断幕を持って、植野理事長の掛け声の後、10時から5kmコースと10kmコースが出発しました。センタービルではハートの人文字を作り、一体感が高まりました。折り返しの松見公園で休憩し、国際会議場に戻りました。～みんなで一緒に～の主旨のもと、命の大切さ、乳がん啓発、健康のありがたさ等々、みんながそれぞれ想いをこめたウォークだったと思います。

ピンクリボン広場でお昼をとり、午後はお勉強というスケジュールでした。

会場の中ホール200は聴衆で満席のなか、中村清吾先生のご講演「乳がんの予防から治療まで」が始まりました。最新のデータをわかりやすくお話していただき、大変勉強になりました。講演でもみんなで一緒に学び、考えることができたと思います。

あらためて、前向きにみんなで一緒に進んでいくことが、いかに大切であるかを認識した1日でした。



♥ プレイイベント～ラン&銀輪隊～

平井 理心

実行委員／筑波大学附属病院総合がん診療センター

5月1日(日)、プレイベントを開催しました。今年は、ランと銀輪隊のコラボレーションです。参加者とスタッフ、あわせて95名。大いに盛り上りました。イースつくばを出発し、ランは、新緑のつくば市内を駆け抜ける約10キロのコース。銀輪隊は、約20キロのコースでした。

ピンクリボンのTシャツを着て、ピンクのバルーンをもち、フェスティバルをアピールしました。ランナーとライダーを見送ったスタッフも、イースつくばでパンフレット等を配りながら、フェスティバルのPRとがん検診受診を呼びかけました。

お天気はあいにく、小雨が降ったり止んだり。でも、スタートすると晴れ間が見え、一安心、と言いたかったのですが、風が非常に強く、銀輪隊はかなり苦戦したようでした。でも、最後まで参加者全員走り抜けました！

震災復興中のご多忙の中、例年と同様に、市原市長(つくば市)、五十嵐病院長(筑波大学附属病院)も、ランナーとして参加いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

また、会場をご提供いただきました、イースつくば様、ありがとうございます。

そして、ランナー＆ライダーのみなさま、本当にありがとうございました。



♥ つくばピンクリボンイベント「ラン」の感想

池田 達彦

実行委員／筑波大学附属病院乳腺甲状腺内分泌外科

今年で3年連続で参加させていただきました。前2年は天候がよく新緑のつくばを爽快に走らせていただきました。今年は雨も少し降っておりましたが、何よりも風が強かったのが大変でした。ただ、アピールするという当初の目標は十分に果たせたものと思います。

多数の方にご参加いただき、お揃いのTシャツを着

て、風船やパンフレットを配ることが出来ました。アピール効果は多少なりともあったと思います。走った方のみならず、スタッフの方々、銀輪隊の方々のご参加もあって良いイベントになりました。

参加者それぞれが楽しみながら活動できることも大事なことです。その点、このイベントは皆でおしゃべりできる程度のスピードで走るので楽しめます。また大勢で一緒に外を走ることは多くの方は滅多にないことでしょう。非日常感も味わえるイベントであることも大事な点かと感じました。個人的にはここ最近はこういう機会でもないとなかなか外を走ることなどありませんので貴重なイベントになっております。



♥ 今年のピンクリボンウォーク

川上 清

実行委員／茨城県ウォーキング協会

ピンクリボンというと乳がんと判る人が増えたと思う。私たち茨城県ウォーキング協会は第2回大会から参加したので、そのピンクリボンにも随分親しんできた。つくばは毎年五月第2日曜日を選んだ。新緑が最も映えるつくばを象徴する日は母の日、讃えるものの筆頭の日である。その日にどうかお母さん達乳がんで死ぬないでの行動を取る人たちは自らサバイバーが多いそうで、だからその主張は真に迫る。

準備の席で披露されたプラカード類には「受けていますか 乳がん検診」「乳がんと私たち～みんなで一緒に～」他が披露された。当日は二人一組で持ち、ウォークの列でアピール力を示した。前日私も2組を作った。習わぬ経を唱える小僧役も毎年参加して「スーちゃん ありがとう!! だけど乳がんで死ぬなんてマッピラ! ねーみなさん だから毎年の検診忘れてはいけないよ! なっても早く見つけてもらうんだ! 水戸歩く会」「いつまでも笑顔で歩くために乳がんをみんなで学びます 検診の大切さを学びます ピンクリボンフェスティバルで学びます 水戸歩く会」の2枚を水戸歩く会四人に持ってもらった。

そのウォーク、植野映先生のアイディア本年版、カンピドリオの丘ならぬ凹地に全ウォーカーが集結、リボン風船をかざして大ハートを作り全員がほほえんだ。ホテル12階からのフォトに期待。参加350人。5th 230人に10th 120人。今年は10th組が断然増えた。それは反省会の席で氷塊した。いろいろを外してウォークに絞った午前はウォーク一本、その選択肢を広げた。歩きたい

人が好きな距離に参加意識を高めたのだ。歩かなかつた役目の人人が来年は歩きたいと告げた。ピンクリボンにはウォークが似合うことを確かめた今年の大会は大成功を飾った。



みんなで歩こう

春日 晴夫

実行委員

みんなで歩こう。みんなで一緒に。1000人で歩こう。新緑のつくば。

今年のフェスティバルは午前のイベントを絞り、みんなで一緒の思いで、バナーを掲げ、乳がん検診の認知を高めるためにウォーク。

ウォークを担当して一番腐心することは、参加者の安全。車道を横切るところ二箇所の立哨をボランティアの方にお願いした。また今年は、センタービルの窓（カンピドリオと云うとか）で、大きなハートを描くことが提案され、参加者の人数に合わせたハートの大きさを決めるため、ボランティアの方に参加者のカウントをお願いした。大きなハートを作るため、5キロコースと10キロコースが一緒の方向に行進したので、岐路でコースを間違えないようにコース掲示立哨をお願いした。

ピンクの風船を朝早くから膨らませ、ウォーク参加者に配布してくれたボランティアの方。色々なボランティアの方に支えられて、無事ゴールする事が出来ました。途中、昨年講演で招聘した羽田さんに遭遇、渋滞を起こすというハプニングもありましたが、それも何かの縁。来年もお会いしましょう。

メッセージツリー

小田 陽子

実行委員

多目的ホール前、オリーブの木にピンクの風船・リボンを飾り、カードを沢山ぶら下げてメッセージツリーを置きました。この木は、昨年活躍したものをまた運び込みました。一年たって少し大きくなっています。一本はしっかり根を張り、もう一本は、どうにか枯れなかつた程度

の元気のなさ。世話人の違いの結果です。

さて、フェスティバルを終え、いったい何人の人がこの木にかかわって下さったのかな？と思い返してみました。

オリーブを運ぶ軽トラックを手配下さった方々。鉄のアーチを貸して下さったイーアスのお花屋さん、アーチを運んで下さった方々。メッセージを書いて下さった150人の方々、飾り付けをしてくれた方々、一年間オリーブの番人を引き受け下さった家族の方。自分でもビックリな人数となりました。そして、なぜ皆さんがあを惜しまずお力を貸して下さるのか、その意味を今一度しっかり受け止めて、乳がん検診の大切さを少しでも多くの人に知ってもらうきっかけになれるよう、さらに知恵をしぼります。本当にご協力ありがとうございました。

最後になりましたが、竹園高校 JRC 部顧問 田上先生、部員の皆さん、女子には強烈な日差しの下、ウォークにも出て下さりありがとうございました。皆さんのお手伝い、とても頼りにしております。ピンクのシュシュ（制作 by 坂東先生）も似合っていました。

（オリーブの木はまた来年まで一本ずつ引き取られて行きました。成長をお楽しみに。）



ピンクリボンフェスティバル 2011 を終えて

野口 恵

実行委員

つくばピンクリボンフェスティバル2011は、お天氣にも恵まれ、今年もたくさんの方にご参加いただきました。

受付では、竹園高等学校 JRC 部員の皆様と顧問の先生、茨城県立医療大学生の皆様、株式会社カスミの皆様、つくば市健康増進課の皆様にボランティアとしてご協力いただきました。たくさんの方々のご協力で、受付業務は滞りなく行うことができました。

フェスティバルに参加してくださった皆様が、最初に接するのが受付です。私自身は、初めての担当だったのですが、受付というのはフェスティバルの顔、とても重要なお仕事だと感じました。フェスティバルに来て良

かったと思っていただけれど、明るい笑顔と、丁寧な応対を心がけました。

毎年行われるこのフェスティバルが、健康の大切さ、命の尊さを考える機会になれば、と願っております。

♥ 進化する受付！

神田 裕子

実行委員

今年のフェスティバルの受付は、かなり簡素化の予定で進めていました。今までちょっと複雑すぎて、当日お願いするボランティアさんすべてをわかつてもらうのは結構難しいことだったのです。実は何度もやっている私も混乱することもあったりしました（苦笑）。今年はシンプルに！でもボランティアさんは多めに、そしてお待たせしない笑顔の対応を目指しました！結果、目論見は当たりです！スムーズに進み、受付ボランティアのほとんどの方がウォークにも参加できました。みなさんありがとうございました！受付もウォークも楽しんでいただけたでしょうか。来年も更なる進化を目指してがんばりましょう～よろしくです！



♥ ピア交流サロン・患者のコーナー

小林 奈美

実行委員／茨城県保健福祉部 保健予防課

茨城県では、がんの告知を受けた患者及びその御家族が心の悩みや体験等を語り合う場の提供を促進する必要があると考え、つくばピンクリボンの会様に御協力をお願いしながら、がん体験者の視点で助言及び相談等を行うことのできる相談員（ピアソーター）の養成と、ピアサポート相談事業を実施しています。ピアサポート相談ブースの開設場所（病院）は現在3か所（ひたち・つくば・かさま）



ですが、今年度中に4か所目の開設を目指しています。そのため、近日中に新たなピアソーターの募集が行われる予定ですので、関係する皆様におかれましては、御協力をお願いできれば幸いです。

今後、少しずつ利用者を増やしていく、事業の評価、改善、ソーターの資質向上などを進めてまいりたいところです。そこで、今フェスティバルでもPRブースを設けさせていただき、ちらしを配らせていただきました。今後も皆様にうるさがられない程度に、事業の周知をはかってまいりたいと存じますので、関係者の皆様におかれましては、どうぞ暖かい目で見守ってくださいますことをお願い申し上げます。

♥ ピンクリボン広場

中野 潤子

実行委員

今回は、多目的ホールをピンクリボン広場と名付けて、茨城県放射線技師会やNPO法人乳房健康研究会、ピンクリボンひたち、ぶらざ、市町村検診情報などの展示コーナーを行いました。フードコーナーでは、パンや飲み物の販売、コーヒーなどが配されました。スクリーンでは、昨年の様子や5月1日におこなわれたイベントの様子のスライドショーが流され、筑波メディカルセンター病院の看護師チームによるフラダンスショー、そして、ウォークのパフォーマンスの表彰式が行われました。表彰式では、いろいろなグッズのプレゼントもありました。

今年は、東日本大震災の影響で、参加を見合せた企業・団体もありましたが、例年同様、華やかで賑やかな楽しいピンクリボン広場になりました。

午後は、中ホール200の講演会の様子も会場に同時中継されました。約90人の方が、熱心に中村先生の講演に聞き入っていました。

これからも、乳がんの早期発見、早期治療のために、自分で自分の健康は守るという意味で、がん検診を受けて欲しいと思います。会場へ足を運んでいただいた皆様へお礼を申し上げます。

♥ フードコーナー

高村 祐子

実行委員／茨城県立医療大学保健医療学部看護学科

フードコーナーでは、担当者は5名で調理パンとペットボトルの飲み物の販売しました。学生ボランティアは早朝のバルーン膨らましと受付、およびウォークと片付けで活躍してもらいました。

パンやペットボトルの並べ方はもちろん、コーナーのレイアウトや飾り付け（中でも『早期発見』と書かれたピンクのウチワは最高！）に若いセンスと工夫が光りました。商品のポップ（「カレーパン」「あんパン」「ALL100

円」「全品100円」等)も上手で、パンがいっそう美味しそうに見えました。

またフードコーナーチームでお揃いのバンダナを付けた(男子も)それが黒のTシャツによく映え、連帯感が生まれ販売が楽しくなりました。

フードコーナーは入り口から最も遠い場所で人目に付きにくい感じでしたが、正面ロビーにもCMの看板を立てたことでその後売り上げが伸びました。

乳がんの早期発見は、乳がんになっていない人だけではなく、今現在乳がんの小康状態や静穏期にある人にとっても同じことです。自分もできるだけ早めに発見し対処しながら少しでも長く生きられるようにしたいです。そのような意味で、今回のフェスティバルの意義は大きいと感じました。このフェスティバルに参加したこと一人でも多くの方が乳がんについて考えそして検診を受ける機会になってくれればと思います。

茨城県立医療大学ボランティアの感想

- ・私はまだボランティアの経験が浅く、今回の参加でいろいろと勉強になりました。
- ・具体的にはフェスティバルの受付や裏方の動き方を知ったり、中村先生の講演を聞いて乳がんに関する知識が得られたことです。またこのような機会があれば参加したいです。ありがとうございました。
- ・皆さん無償で汗を流していて素晴らしいと感じた。
- ・東日本大震災への支援にも、間接的になり貢献できてよかったです。



ピンクリボングッズ

山田 光子
実行委員

今年も多目的ホールの広場でピンクリボングッズ販売を担当しました。バッジが安全ピンタイプになったので付け易いという嬉しい感想がありました。ファイルもこれまでより値段を下げる(古くなるとファイルの変色が心配で...)売りました。グッズとしてはこれにTシャツを加えて3点のみの販売でした。

今年は理事長はじめメンバーの中に3人の還暦を迎え

る方がいらして、お揃いの赤いタオル等還暦印を身に付けてらっしゃいました。その赤がとてもきれいで、それをつくばピンクの色にしたらウォーキングやランの時どんなにいいかしら、と思いました。ピンクのおしゃれなロングスポーツタオル、来年は是非グッズに加えて頂きたいです!



中村清吾先生講演会 “乳がんの予防から治療まで”

坂東 裕子

実行委員／筑波大学臨床医学系乳腺甲状腺内分泌外科

お天気に恵まれたさわやかな陽気のなか、中村先生は五月の風のように颯爽と登場です。講演会の会場は予定していた中ホール300が震災の影響で使用できず、残念ながらやや狭い中ホール200に変更されましたが、開始前から満員!立ち見の聴衆もみられました。会場には入れなかったたくさんの方も多目的ホールの同時中継で講演を聞くことができました。期待に目を輝かせ、ペンとノートを手に少しでも聞きもらすまいとされる方も多く、熱気漂う中、講演が始まりました。

乳がんとは何か?予防に関する学問的見解、なぜ、検診の普及が重要なのか、遺伝子情報を用いた乳がんの分類、乳がんの治療についてなど、幅広く教えていただきました。内容はまさに最先端で、医学的データに基づいたものです。医学的に正しいものは正しい、解明されていないものはまだわからないと、理路整然とお話しいただけました。ともすると、非常に複雑だったり、難しく感じてしまったりするところですが、中村先生は常に優しく、にこやかなお顔でゆっくりとした語り口でしたので、一つ一つの情報がとてもわかりやすく感じました。

乳がんについてまだあまり知らない人も、いっぱいこれまでに勉強している方にとっても、非常に有意義なものだったのではないかと思う。今日は東京から中村先生にお越しいただけて本当によかったです、と講演終了後、会場を出られる皆様の満足そうなお顔を見て思いました。

今回はピンクリボンという、検診の普及・啓発活動を念頭にお願いしたご講演でしたが、会場には、再発を含めた治療の実際・副作用・乳がんと診断されたその後の人生のあり方など、もっと深く知りたくなった方もいらっしゃったことでしょう。

“乳がんについて知ること”これがすべての始まりです。そして“考えることを続けること”も大切です。これからも皆様にご興味を持っていただけるように頑張り

たいと思います。

ご講演いただきました中村清吾先生、ご講演に参加された皆様、スタッフのみなさん、本当にありがとうございました。



♥ 乳がん相談コーナー

梅本 剛

実行委員／筑波メディカルセンター病院 乳腺科

毎年の恒例となっており
ます、乳がん相談コーナー
を担当いたしました。

今年は6名の乳腺専門医
の先生方に相談医をお引き
受けいただきました。今回
初めての試みとして、当日
のみの相談受付としました
ため、「相談者が少なかつ
たら?」など若干の不安を
かかえつつ、フェスティバル
当日を迎えました。心配をよそに、当日受付開始直後
からの相談申し込みがあり、最終的には計6名の相談者
をお受けすることができました。

相談コーナー周囲はなるべく静かで落ち着いた環境と
なるようこころがけました。また待機されている相談者
が、乳がん認定看護師と会話できるようにした席を設け、
不安や緊張をやわらげるために効果的であったと思いま
す。

相談内容は検診の内容、術後薬物療法について、再発
の不安についてなど幅広いものでしたが、各相談医の得
意分野、当日の進捗をふまえて割り振りを行いました。
相談医の先生方には、ピンクリボンウォーク直後でお疲れ
のところ、なかには予定時間を大幅に超過した内容も
ありましたが、相談者ひとりひとりにゆっくりと、丁寧
な対応をいただきました。終了後の相談者の反応からは、
非常に高い満足度を感じることができました。

今後も、ひとりでも多くの方に前向きな気持ちで治療
を受けていただけるよう、「乳がん撲滅」を目指すつく
ばピンクリボンの活動のひとつとして、地道に続けてい



ければと思います。

最後に、ご協力をいただきました相談医の先生方に心
より感謝を申し上げます。

-相談医（敬称略）-

阿部聰子（栃木県保健衛生事業団）

佐藤宏喜（水戸赤十字病院）

武田泰隆（復十字病院）

原 尚人（筑波大学）

坂東裕子（筑波大学）

平野 稔（茨城県立中央病院）

♥ フェスティバル 2011 に寄せて

竹原 陽子

（株）カスミ環境社会貢献部

弊社は、2007年からボランティア参加をさせていた
だいております。今回は、一時中止も検討の中、「今あ
る命の大切さを分かち合い、被災者の支援のためにも」と
と開催された事をお聞きし、大変共感致しました。

弊社ボランティアは、恒例の「受付」と、「1000人
ウォーク」に参加致しました。特に、5月晴れのつくば
の街に、ピンクのハートの風船を持った団体が歩く様子
は、P R 効果大で、途中、道行く方から質問を受けました。
思いがけないコミュニケーションに疲れも飛び、啓発活
動に微力ながらお手伝いできた喜びを実感致しました。

今回も、「乳がん」への関心の高い方々が大勢参加さ
れ大成功でした。より多くの方に早期発見・早期治療の
大切さが伝わっていきますよう、会の皆様のご活躍をお
祈り致しますとともに、今後もぜひ参加ご協力をさせて
いただきたくお願い申し上げます。

♥ つくばピンクのコラボ力

高久 真理

実行委員／大和ハウス工業株式会社・イーアスつくば

フェスティバルのプレイベント『ピンクリボン・ラン
& 銀輪隊@イーアスつくば』を続けていただいて、3年
目になりました。

震災後、4月に入って、「フェスティバルを予定通り
やります。」というご連絡があり、事前の実行委員会か
ら参加させていただきました。ご一緒させていただき、充
実した時間を過ごせたことと共に、大変勉強になりました。
本当にありがとうございました。

実行委員会では震災復興支援金に充てるために、いろ
いろな工夫や節約努力が行われ、急ピッチで準備が進め
られました。結果、実行委員会の熱意と様々な課題を樂
しみながら解決する雰囲気が、イベント参加者に伝わり、
イベント参加している人の楽しさが見る人に伝わる、そ
ういった熱意と楽しさの空気感も上手く伝わったイベン

トだったと感じました。

単独では広がりを持ちにくいソーシャルキャンペーンですが、つくばピンクリボンフェスティバルは、これまでの関係者皆様の努力の賜物で、NPO団体、医療・医薬関係者、自治体、施設、企業やメディアなど、組織間のコラボレーションが可能になってきています。

これからも、つくばピンクリボンの活動を、ローカルネットワークでつなぎあい、街、人、組織のコラボレーションを通じて、多面的なキャンペーンプログラムと一緒に広めていきたいと思います。

つくばピンクリボンフェスティバル 2011に参加して

蒲原 和久

中外製薬株式会社

このフェスティバルは、運営される方、参加される方、皆様の自然に溢れる笑顔が印象的で、手作り感をいつも感じています。

今年のフェスティバルは、天気にも非常に恵まれ、また皆様の笑顔にも囲まれた中、お手伝いという形で参加させて頂きました。

植野先生も言われておりましたように「全員で同じことをする」ということが各コーナーで実現されたように思い、とても一体感を感じた会でした。

年を重ねる毎にウォークの人数も更に増え、益々乳がんで苦しむ方を減らせるような希望が持てました。

この度のフェスティバルの成功、心より御祝い申し上げます。



つくばピンクリボンフェスティバル 2011に参加して

塚田 篤司

東芝メディカルシステムズ株式会社

今年は大変大きな災害もあり開催の心配をしておりましたが、当日は天候にも恵まれ今年も素晴らしい会の開催になりました。

私としては、5年前より3年間ウォークに参加させていただき、昨年からはボランティアとして朝のバルーンパフォーマンス及び講演会のお手伝いをさせていただきました。

朝から多くの方とお手伝いさせていただきながら、ウォークに使用するバルーンを小さなお子様からお年寄りの方まで配布させていただきましたが、幅広い年代の方々が乳がんという病気を通じて命の大切さを考える時間共有していることもこのフェスティバルに参加させていただく一員として嬉しく感じました。

私が出来る活動としては、超音波検査、マンモグラフィ検査普及への啓発を継続的に行い、更に多くの方々が安心して検査を受けられるような製品作りに取り組んでいくことだと改めて考えさせていただきました。

フェスティバルに参加して

坂井 望

東都医療大学ヒューマンケア学部看護学科 3年

とても気持ちのいい陽気の中でつくばピンクリボンフェスティバルが開催されました。今回3回目の参加となります。毎回新たな発見や多くの人の出会いがあるように感じます。今年は、東日本大震災の影響もあり内容が例年とは異なりましたが、みんなでひとつになる、人と人が繋がる、そんな絆が感じられるような内容だったのではないかと思います。また、今年はボランティアの募集も一般受付はありませんでしたが、私と同年代の方も協力してくださりとても嬉しく思いました。朝早くから、風船が割れる音に驚きながらも、大量のピンク色のハートの風船を膨らましてくださったバルーン担当の方、5月としては暑いというような中、風船や横断幕を持って歩いてくださったウォーク担当の方、ほかにもたくさんの方が協力してくださったことで、会場にはたくさんの笑顔があふれていました。人は病気に気付くまでは自分は健康であると思っています。しかし、「気づいた時には遅かった」そんなことにならないように、今回参加してくださった皆さんにとって乳がんや自分の健康と向き合う機会に、そして検診を受けるきっかけとなってくれたら良いなと思いました。

♥ ピンクリボンフェスティバルに参加して

小野田マヤ・佐藤綾子・柴原美姫子・土井進
実行委員／筑波メディカルセンター病院 看護師

私たちは今回初めての参加でした。何をしていいかまったく分からぬ状況の中で、毎月の会議に参加していました。

「本当にフェスティバルを迎えることが出来るのだろうか・・・」と不安にも思っていました。

しかし、フェスティバルが近づくにつれ、グッズや場所のレイアウト等が決まっていくのを見していくと、自分たちの知らないところでの他の実行委員さんたちの働きをすばらしいと思いました。また、会議に出席するたびに形になっていくことで、本当に始まるんだな・・・と、フェスティバルが近づいていることを実感することができました。

当日は本当に楽しく、時間が経つもの忘れてしまうようなかんじでした。

私たちは、自分の持ち場をこなすので精一杯でしたが、他の委員の方々は周りをきちんと把握されていたり、本当に「運営」されてるんだな・・・と感心しました。

今回は、震災の影響もあってか、去年よりも来場者が少なかったようですが、それでも乳がんに興味がある人が大勢いるんだな、と改めて実感することが出来たように思えます。

こうしたピンクリボン運動がもっと広まり、乳がんを知って検診にいく方が増えていくことが目標でもあり、そうなっていくように今後も働きかけていかたいな、と思っています。

ありがとうございました。



♥ 取材協力

NHK 水戸放送局・土浦ケーブルテレビ株式会社 J:COM
茨城・ACCS

♥ 参加データ

参加者総数 **750** 名

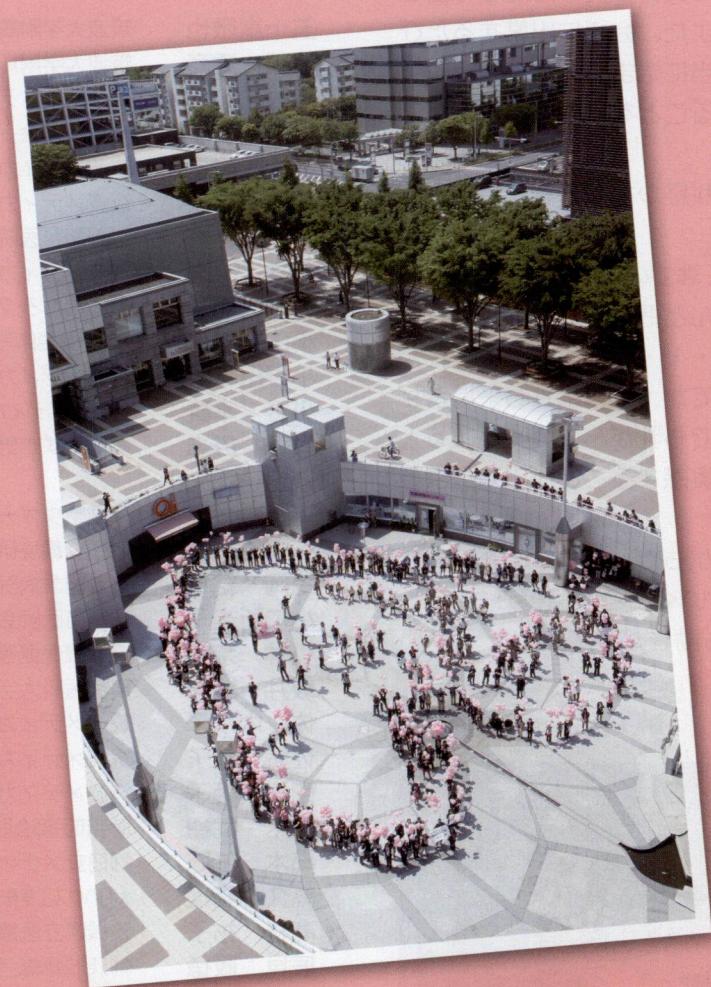
ピンクリボンラン	62 名	乳がん相談	6 名
銀輪隊	18 名	講演会	約 350 名
ウォーク	350 名		

ボランティア数 **247** 名

展示ブース団体 **13** 団体 (患者会も含む)

♥ 実行委員

五十嵐徹也	筑波大学附属病院長
池田 達彦	筑波大学附属病院乳腺甲状腺内分泌外科
市村 優一	(財)茨城県メディカルセンター
伊東 孝子	たんぽぽ会
井上 陽子	筑波メディカルセンター病院
植野 映	筑波メディカルセンター プレストセンター長
上野 修	上野歯科医院
梅本 剛	筑波メディカルセンター病院 乳腺科
太田代紀子	おおたしろクリニック
小田 陽子	筑波大学臨床医学系乳腺甲状腺内分泌外科 非常勤職員
小野田マヤ	筑波メディカルセンター病院 看護部 手術室
小野 幸雄	(財)筑波メディカルセンターつくば総合健診センター
貝塚 広志	貝塚みづき野クリニック
春日 晴夫	茨城県ウォーキング協会
川上 清	(独)国立環境研究所 環境計測研究センター
神田 裕子	筑波記念病院放射線科
鯨岡 結賀	石岡市医師会病院
小仁所圭子	茨城県保健福祉部 保健予防課職員
小林 奈美	東京医科大学茨城医療センター放射線部
坂井 朋夫	筑波メディカルセンター病院 乳腺科
佐々木京子	筑波メディカルセンター病院 看護部 手術室
佐藤 綾子	筑波メディカルセンター病院 看護部 手術室
柴原美姫子	取手市医師会取手北相馬保健医療センター医師会病院
鈴木 武樹	(財)日立メディカルセンター
高木 聰	大和ハウス工業株式会社/イーストつくば イーストつくばオフィス
高久 真理	茨城県立医療大学保健医療学部看護学科
高村 祐子	(財)茨城県総合健診協会
辰見 政徳	筑波大学芸術学系
田中佐代子	筑波メディカルセンター病院 看護部 手術室
土井 進	筑波メディカルセンター病院 看護部 手術室
東野英利子	つくば総合健診センター
中野 潤子	くるみの会
野口 恵	森の会-筑波メディカル・ピンクリボンの会
坂東 裕子	筑波大学臨床医学系乳腺甲状腺内分泌外科
平井 理心	筑波大学附属病院 総合がん診療センター
文 由美	つくばセントラル病院外科
前島 朋子	前島レディースクリニック
前島 正基	前島レディースクリニック
光畑 桂子	筑波メディカルセンター つくば総合健診センター
森島 勇	筑波メディカルセンター病院 乳腺科
八木 淳子	茨城県つくば美術館内 ミュージアムショップa
山田 光子	森の会-筑波メディカル・ピンクリボンの会
山田 陽子	



NPO法人つくばピンクリボンの会
Tsukuba Pink Ribbon Coalition

〒305-0005 つくば市天久保1-1-1 筑波メディカルセンター西館2F Tel & Fax:029-856-2002

